

被害者保護者からいただいたコメント

私ども家族は、5年以上にわたっていじめ被害に苦しみ、今も苦しみの中にあります。藤川前会長の発表内容は私たちの認識とも一致しています。すぐに対応が必要であるという趣旨で出された中間報告について、学校及び流山市教育委員会は、その趣旨を汲もうともせず、対応しようとするしていません。流山市教育委員会及び井崎流山市長には、法令に従い、かつ被害者に寄り添ったいじめ対応を進めていただくことを強く求めます。長くいじめ被害に苦しむ子どもが、つらいことばかりの中でももっともつらいと言っているのが、流山市教育委員会に嘘の説明や嘘の対応をされたことです。平成29年3月にようやく重大事態が認められ、教育委員会の担当の方からは藤川先生たち調査会がすぐに調査をしてくれるかのような説明がありました。しかし、4ヶ月以上にわたって、調査会が行われているかのように装うだけで、調査がなされていなかったことを知り、子どもは深い絶望を覚え、その後も深刻な人間不信の状況にあります。子どもたちのために働くはずの教育委員会が、法令を守らず、子どもを裏切り、子どもを苦しめている実態があることを、多くのかたに知っていただくことを希望しています。